

「熊大通信51号」

特集Ⅰ：永青文庫とは？

細川家は室町幕府三管領の一つとして武門の誉高い家柄で、現在の細川家は藤孝(幽斎)を初代として戦国時代に始まります。武人藤孝は優れた歌人・国文学者として、また、信長の雑賀征伐に弱冠15歳で初陣し先駆けの功に輝いた忠興(三斎)は千利休の高弟の一人としても名高く、その室・明智光秀の娘玉は波乱の戦国時代を清冽に生きた武将の妻として、ガラシャの洗礼名で知られています。3代忠利のとき肥後熊本五十四万石を与えられ、強力な外様大名として幕末に至りました。この家に伝来する歴史資料や美術品等の文化財を管理保存・研究し、一般に公開しているのが永青文庫です。

財団は昭和25年、斯界に著名な侯爵16代護立公によって、細川家に伝来する文化財の散逸を防ぐ目的で設立されました。その名称は藤孝の養家の始祖細川頼有以後8代の菩提寺である京都建仁寺塔頭永源庵の「永」と藤孝の居城青龍寺城の「青」の二字をとって護立公が名付けたものです。

その建物は、今は遠き武蔵野の面影を止める目白台の一面に、江戸時代から戦後にかけて所在した広大な細川家の屋敷跡の一隅にあります。

所蔵品は護立公と17代護貞氏から寄付を受けたものであり、熊本県立美術館にでも展示しています。また、熊本大学附属図書館に藩政資料等の古文書・典籍類を寄託して、各界の研究に役立てています。(財団のホームページから)

特集Ⅱ：【図書館】中央館 大解剖！

図書館が教育に果たす役割はますます大きくなっており、単に情報を提供するだけでなく、学生たちの知の創造を促し、学修支援に深く関わるといった役割がもたられるようになってきました。リニューアルオープンした中央館は、1階を動の空間、2階を静の空間、そして地階は蓄(アーカイブ)の空間と、利用スタイルごとにすみ分けること

で、学生の自律的な学修を支援する機能を強化しました。今回特に大きく変わったのが動の空間として位置づけた1階部分です。ここは「ラーニングcommons」という新しい図書館機能を付与しました。「ラーニングcommons」とは学生が議論し知識を求め、共に考える場のことです。1階は主に「アクティブエリア」、「ライティングサポートエリア」「グループ学修室」によって構成されています。「ライティングサポートエリア」では、教員や大学院生が講師を勤める「熊本大学ライティング指導室」によるレポート作成支援などが定期的に行われており「受

講した学生のレポートが分かりやすくなった」など学内外から評価する声が聞かれるようになりました。また、プロジェクター完備の「グループ学修室」はガラス張りとなっており、ディスカッションなどの様子が外からも伺えることから、見られること、による学生たちのモチベーションアップにもつながっているようです。2階の「サイレントゾーン」は、アンケートの要望に答えて学修に集中できるよう、個室を160席ほど設置しました。



また、1階に飲食できるリフレッシュコーナーが設置されたのも、従来の図書館のイメージから変わったところでしょう。インターネットで容易に情報を入手できる時代ですが、図書館には、膨大なアーカイブ、共に考えを深め合える仲間がいます。多様な人が集まり、さまざまな意見を交わすことによって新たな視点を得ることが出来ます。図書館に集う学生の中から、今までにない視点を持った、世界に通用する人材が育っていくことを願っています。(大熊館長 [挨拶] から)

第6回「東光原文学賞」受賞者が決定しました。

大賞：作品名：「四色衣」

脇山 怜 (医学部保健学科3年)

優秀賞：作品名：HENSHIN

吉川真悟 (教育学部中学校教員養成課程国語専攻4年)

作品名：水面の蝶は空を見るか

牧 和泉 (教育学部地域共生社会課程3年)

作品名：さよなら、ランガー

植草しおん (医学部医学科6年)

作品名：金木犀の彼女

大塚建直 (工学部情報電気電子工学科1年)

※受賞作品は、「東光原文学賞作品集」として、3月に刊行予定です。

ロビー展示

今回のロビー展示は、「旅する図書館」です。

新しく購入した、ガイドブック「d design travel」を展示しています。コンセプトは、「ロングライフデザインをテーマに47都道府県それぞれにある、その土地に長く続く「個性」「らしさ」を、デザインの観点から選びだして、観光ガイドとしてまとめたものです。」

今回の雑誌のバックナンバーは、

- ・「旅」
- ・旅の手帖
- ・FIGARO japon Voyage

「21世紀型大学教育セミナー」が開催されました。

(平成26年1月24日：主催：大学教育機能開発総合研究センター)

基調講演では、九州大学基幹教育院准教授の山田政寛氏を講師としてお招きし、「教育の質向上のための大学図書館における学修支援」と題してご講演いただきました。また、図書館からは、リニューアルオープンのコンセプトと今後の方向性について発表しました。セミナー終了後は、希望者の方々に図書館内のツアーへ参加していただきました。山田政寛氏のブログなどから・・・

- ・教育の質向上に対する図書館の役割
- ・図書館における学修支援およびラーニングcommonsの事例紹介
国内の大学、及び外国の大学の例
- ・大学ごとに多様な学び、特色ある学修支援の実現に向けて
大学図書館、ラーニングcommonsにおける学習支援では、確かに授業と連動した学習支援ができれば、それは望ましい。しかし、学習というのは、授業の場だけで起こっているのではない。学生が自律的に成長していく場合は、授業外の方が圧倒的に多い。大学図書館は「学生が集まる場」として、学生の成長を、さまざまなアプローチで支えることができる場と変わっていく可能性があると感じている。
キーワードは、「バリバリアクティブ」「アクティブラーニング」とか！

中央館から利用者の皆様へ

試験期間中、多くの皆様にご利用いただき、ありがとうございます。

次のことをお願いします。

- ・閲覧室では、「飲食」はできません。1階入口側のリフレッシュコーナーをご利用ください。